

ト 出荷後の池管理

5～6月に放養した種エビも3月には出荷され、年間のしめくりとなるが、出荷後の3～5月は次期放養に備え、池の掃除、網の補修、機械器具の整備期間である。特に池の掃除は年1回は池干しをし、砂立と称して、エビの寝床となる砂をとこところによせ集め、曝射をして砂の還元を図ったり、新しい砂と取り替えたりする作業がなされている。池干しは砂の還元を図る他に外適となるカニ、ウナギ、ボラ等の雑魚を取り除くためでもある。

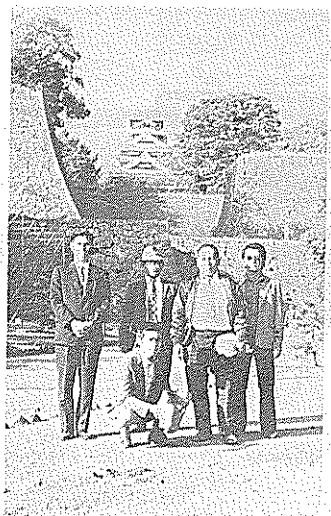
チ 考 察

以上、熊本県での車エビ養殖の研修報告を取りまとめたが、沖縄における車エビ養殖の成否は安い価格で継続して供給できるエサの確保いかにかかっているかと思う。

各養殖場でエサ代について聞いたところ、アサリのムキ身をKg当り50～50円で購入し、1Kg生産するに与えたエサ代は1,700～2,000円とのこと。エビの売上平均単価4,000円のうち50%はエサ代との話である。もし、Kg当り100円のエサならば、エサ代だけでとんとんになってしまうそうである。

熊本県における車エビ養殖のように、生エサ給餌の方法では、エサの入手面で大きなハンディーを持っていることを痛感した。ただ、今後、ウナギ養殖等のように、配合飼料による飼育が確立されつつあるので、エサ入手のハンディーも解消されるものと期待される。そうなると、亜熱帯、海洋性気候の恵まれた自然的条件をもつてすれば、周年給餌が可能である。他府県にない大きなメリットを持っているので、本県のウナギ養殖の伸展ぶりが如実に示すように、車エビ養殖についても発展が期待される。

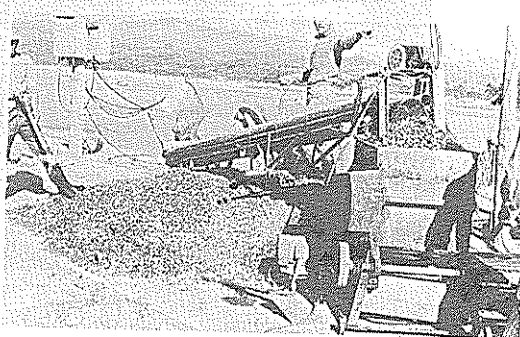
おわりに、今回の視察にあたり、御高配をいただきました熊本県水産課に厚くお礼申し上げます。



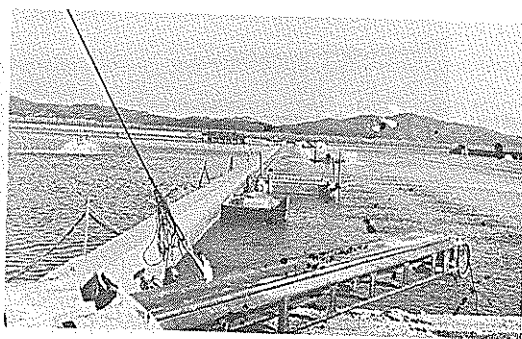
研修員メンバー



干満潮差利用の水門



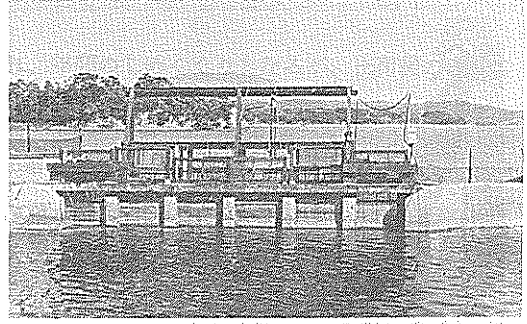
エサとなるアサリの殻わり



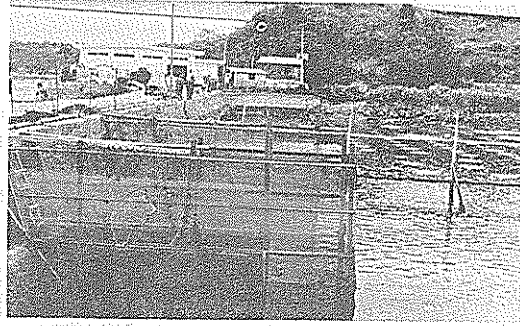
水車による酸素補給



池底のパイプ配管



九州活魚の水門



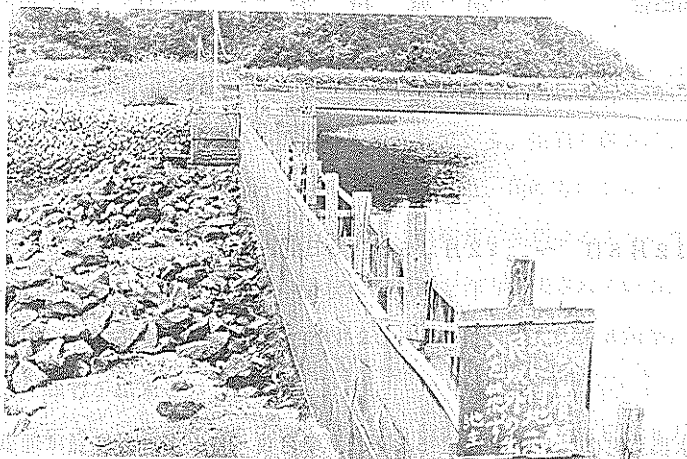
益田水産の水門



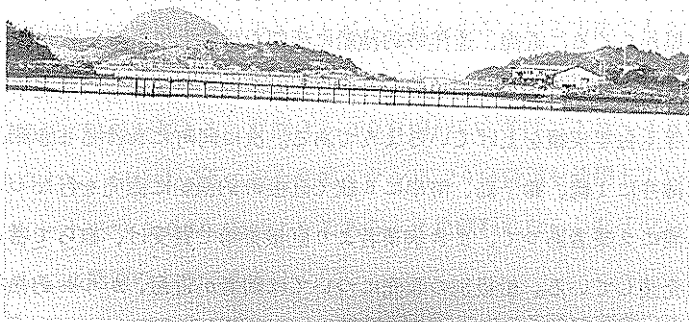
ポンプアップによる水供給



初の試みとして取入れた冷凍カキ



網任切による池の区分



益田水産の水門

Ⅳ 鹿児島県の鰹餌料蓄養技術

宮古地区水産業改良普及員 仲間 照

1. 研修先

鹿児島県出水郡東町漁協

2. 研修者所属及び氏名

伊良部漁業協同組合	上 地 清 吉
"	池 原 勇 雄
池間漁業協同組合	新 城 将 美
"	与 那 嶺 勇 吉
"	与 座 満

3. 研修年月日

昭和 48 年 12 月 8 日 ～ 12 月 15 日 (8日間)

4. 内 容

イ 東町漁協の概況

東町は鹿児島県出水郡東町に属し正組合員 553 名、準組合員 269 名、役職員は理事 7 名、監事 2 名、職員 12 名を擁し、鹿児島県下では中以上の漁協と云えます。経営内容は地域にまつちした漁業を行い、ほとんどが魚類養殖で他にゴカイ、アイ、カキ、アコア、貝養殖等がある。特に 2 年子ハマチ(ブリ)類の養殖は盛んで出荷先も東京をはじめ、6 大都市の消費市場へ送られ、東町漁協の商標として売込み魚肉の質においては、日本一の好評を受けている様である。また、小型まき網を使用しての鰹餌料(カタクチイワシ)の採捕(蓄養)も行い、その需給体制はととのい、県内及び他の県からくる、近海、遠洋鰹釣漁船に活餌を供給している。なかでも三重県、静岡県は 200 ～ 400 t 級の大型船の利用がおおい。なお、ほかに当漁協の購売事業、販売事業取扱高、信用事業等も毎年実績を上げているようである。次に同町におけるまき網は 19 統で、そのうち蓄養業者は薄井に 1 統、獅子島、幣串に 6 統で直接鰹釣漁船に直売を行なっている。また、仲買業者が宮之浦に 2 業者あつて、まき網業者より直接業場で買受け、自らで蓄養し、前業者同様に鰹釣漁船に売渡している。船級別の販売については前者が近海、かつお釣漁船に対し、後者は遠洋への大型漁船が主に活用している。

門 水 産 業 協 会